

平成25年度における施策評価

施策評価調書

政策コード	10	政策名	交通基盤の整備		
施策コード	1	施策名	高速・広域交通ネットワークの整備		
幹事部局コード	8	幹事部局名	建設部	担当	建設政策課
評価者・実施日	1次評価（建設部長）		平成25年7月31日		

1 施策の方向性（必要性と目的）

国内外との交流の促進と広域的な連携を強化し、本県の産業、経済、文化の振興を図るため、空港、鉄道などの高速・広域交通ネットワークの整備を推進する。また高速交通ネットワークの利便性を向上させることにより、より一層の利活用の促進を図る。

高速道路については、着実な整備を促進するとともに、アクセス道路の整備を図る。また空港については、利便性の向上を図るため、県民とともに利活用促進運動に取り組む。

2 施策の状況

(1) 施策目標及びその達成状況

●施策目標(評価指標)		基準値	年度	H22	H23	H24	H25	備考
		年度						
①	秋田自動車道の交通量(単位:台/日)	16,397	目標値	17,700	18,100	18,500	18,800	
		H18	実績値	32,318	28,505	22,218		
	道路課調べ	—	達成率	182.6%	157.5%	120.1%		
②	空港利用状況(千人)	1,357	目標値	1,459	1,476	1,493	1,510	
		H11	実績値	1,188	1,219	1,234		
	港湾空港課調べ	—	達成率	81.4%	82.6%	82.7%		
達成度				B	B	B		

達成度 A:「全て達成」 B:「半分以上達成」 C:「達成が半分未満」 D:「全て未達成」 E:「その他」

(2) 施策の推進状況

①高速道路網の整備と利活用の促進

■取組内容

・高速道路の事業中区間の整備促進、未着手区間の早期着手に向けた働きかけ、利活用促進に向けたアクセス道路の整備。

■取組の成果

- ・供用開始区間
 - 国道7号：大館西道路「仁井田真中IC～大館南IC」（H23.12月）
 - 国道7号：象潟仁賀保道路、仁賀保本荘道路「金浦IC～にかほ市両前寺」（H24.10月）
- ・事業中区間
 - 高速自動車国道：大館北～小坂JCT（新直轄）
 - 国道：象潟仁賀保道路、二ツ井今泉道路、院内道路、大館西道路、遊佐象潟道路
 - 県道：鷹巣西道路
- ・計画段階評価の手続き着手
 - 東北中央自動車道「昭和～雄勝こまち」
- ・利活用促進に向けたアクセス道路の整備
 - 能代五城目線（上岩川工区）、象潟矢島線（荒屋妻工区）
- ・西仙北ICのスマートIC化の実現

■課題と今後の推進方向

- ・高速道路ミッシングリンクの早期解消。
- ・大会等を通じ事業促進に向けた取組を今後も実施。
- ・高速道路の利便性確保のためアクセス道路の整備を推進する。
- ・スマートIC設置に向けた事業支援及び利活用促進のための広報活動。

②空港の機能強化等による航空利用者の利便性の向上

■取組内容

・空港へのアクセス道路や秋田空港ターミナルビルに直結する立体駐車場の整備を進めるとともに、利用者のニーズに即したダイヤの実現に取り組むなど、空港利用者の利便性の向上を図る。

■取組の成果

・平成22年9月、秋田空港ターミナルビルに直結する立体駐車場が完成し、利便性が向上した。
・平成23年7月、秋田空港アクセス道路 秋田御所野雄和線（御所野工区）が完成することにより、空港へのアクセスが向上した。
・秋田空港において、平成23年10月30日から東京線が、12月16日から大阪線がそれぞれ2往復増便され、国内定期便は開港以来過去最大の便数となり、利便性が向上した。
・秋田空港において、平成24年3月25日から運用時間を30分延長したことに伴い、首都圏の滞在時間を拡大するダイヤが実現するなど、利便性が向上した。
・秋田空港において、平成25年3月31日からANA札幌線が2便新規就航したほか、大阪線で夜間駐機便が実施されるなど、利便性が向上した。

■課題と今後の推進方向

・秋田空港については、アクセス道路及び立体駐車場の整備により、利便性は向上した。また、平成23年度下期ダイヤより東京線及び大阪線が、平成25年度上期ダイヤより札幌線が増便され、路線拡充が図られたところである。今後は、関係部局や関係団体とさらに連携した利用促進やPR活動に取り組むことにより、利用拡大及び路線の維持・拡充を図っていくことが重要である。
・大館能代空港については、平成22年から利用促進に向けた取組を強化しているが、平成24年度の東京線利用者数は、前年度を下回っている。搭乗率も目標の60%を下回っている状況にあり、引き続き、県、地元市町村、利用促進協議会等が連携を密にし、利用促進に取り組む必要がある。

3 評価

(1) 施策幹事部長による1次評価

評価結果	●施策の推進状況
概ね順調	<p>・秋田自動車道の交通量は、東北地方の高速道路の無料開放が終了したことから、平成24年度は減少したが、通行料の割引制度の継続等により目標を達成しており、施策全体としては概ね順調に推移している。</p> <p>・平成23年度は日本海沿岸東北自動車道の「二井田真中～大館南」間(2.6km)、平成24年度には同じく「金浦IC～にかほ市両前寺」間(8.2km)が供用したほか、新たな事業進捗として平成24年度に二ツ井今泉道路、平成25年度に遊佐象潟道路の新規事業化等、県内高速道路の全線開通に向け目処がついたところである。</p> <p>・「空港利用者数」は目標数値を下回っており、これは大館能代空港の大阪便の休止、他路線の機材の小型化などにより、利用者数が減少したためである。</p>
	<h3>●課題と今後の推進方向</h3> <p>・今後も関係機関と連携をとりながら、高速道路の整備促進、早期事業化に向けた働きかけを続けるとともに、県施行区間である鷹巣西道路の整備促進を図る。また、利活用促進に向けたアクセス道路の整備を進めていく。</p> <p>・高速道路とそのアクセス道路は、産業振興や広域観光などを支える基盤として、今後なお一層の整備推進を図る必要がある。</p> <p>・空港利用については、官民一体となって利用促進に取り組むことにより、空港利用者を拡大し、路線の維持・拡充を図っていく必要がある。</p>